

GLOBAL

「国際理解教育研究プログラム」私から始まる国際理解教育—自己理解と参加—

1994.11.26-27 SEMINAR



主催 日本国際理解教育学会
国際理解教育・資料情報センター(ERIC)
東京YMCA国際奉仕センター



開催日程 1994年11月26日(土)~11月27日(日)
会場 東京YMCA国際奉仕センター 東京都千代田区神田美土代町7-1 ☎03-3293-7011

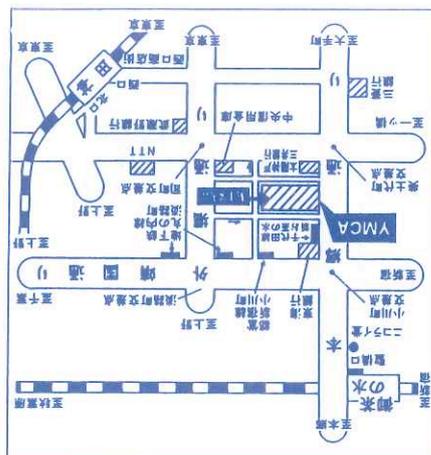


後援 文部省、全国高等学校長協会、東京都教育委員会
全国高等学校国際教育研究協議会、開発教育協議会、
帝塚山学院大学国際理解研究所

★参加ご希望の方は、別紙の申込書にご記入の上、下記の住所宛にお送りください。

〒150 東京都渋谷区神南1-22-8 渋谷東日本ビル9F 日本国際理解教育学会「グローバル・セミナー」係 ☎03-3770-7307

- 東京YMCA国際奉仕センター
 - JR
 - 神田駅 出口(西口、北口)
 - 御茶の水駅 出口(聖橋口)
 - 丸の内線 淡路町駅 出口(A-2・A-4)
 - 千代田線 新お茶の水駅 出口(B-6)
 - 都営新宿線 小川町駅 出口(A-6)
 - 銀座線 神田駅 出口(北口)
- 地下鉄



国際理解教育・資料情報センター(ERIC)研究会員 4,000円
東京YMCA国際奉仕センター維持会員

日本国際理解教育学会会員

7,000円

参加費 一般

定員 100名(定員になり次第締め切ります。)★申込受付後に、振込先を通知いたします。

参加対象 教員および教育関係者

〔開催主旨〕

ますます深刻さを増す環境問題や格差が広がるばかりの南北問題など、地球規模で解決しなければならないさまざまな課題が山積みする現在、一人ひとりが「地球市民」として自覚を持って考え行動することが強く求められています。このような状況を背景に、教育の国際化が叫ばれ、英語教育や帰国子女教育などの実践が行われていますが、1974年のユネスコ国際教育勧告がいうところの、環境、人権、開発、平和等の分野をカバーした広い意味での国際理解教育の取り組みは、現在の日本において未だ十分に行われているとはいえません。

一方、イギリス、オランダ、オーストラリア、アメリカなどでは、教育現場（学校教育、社会教育）でさまざまな形の国際理解教育が展開されており、その実績には目をみはるものがあります。それらの成果の一部は日本にも紹介されるようになりましたが、必ずしも十分ではありません。

このような状況のもとに、国際理解教育に関わる国内の人的ネットワークと研究・実践の促進を主な目的として1991年1月に設立された日本国際理解教育学会、青少年育成・国際協力活動等社会教育の推進に110余年の歴史をもつ東京YMCA、そして内外の実践紹介を中心に、国際理解教育の情報提供および研修を実施している国際理解教育・資料情報センター(ERIC)の三団体が協力して、真の「地球市民」を育てる教育方法を学ぶ研修を実施することになりました。

今回のセミナーは、海外の国際理解教育の実践者から直接話を聞くだけでなく、模擬授業の形で体験を通して、その内容を十分に吸収理解し、日本での実践への道を探ろうというものです。そしてさらに、このような研修の積み重ねを核に、日本における国際理解教育の内容を深め、その普及を推進しようというものです。

PROGRAM

11月26日(土)

13:00 受付開始

14:00~15:00

関係団体からのメッセージ
「国際理解教育への期待」
日本国際理解教育学会／国際理解教育・資料情報センター(ERIC)／東京YMCA国際奉仕センター

15:00~17:30

研修Ⅰ 全体学習
「国際理解教育とは何か」
コーディネーター：角田尚子

18:00~20:00

ネットワークを兼ねた交流会
異文化間コミュニケーション体験ゲーム
「クスクス」
ファシリテーター：向 謙治郎

11月27日(日)

9:00~12:00

研修Ⅱ 分科会形式
「私から始まる国際理解教育-ME, YOU AND OTHERSの著者を迎えて」
コーディネーター：
エリザベス・キャリスター

13:00~15:00

研修Ⅲ 分科会形式
「国際理解教育推進のための枠組作り」
①小学校 ②中学校 ③高校 ④社会教育
コーディネーター：稲垣有一

15:00~16:00

クロージング

GLOBAL SEMINAR

●講師紹介

エリザベス・キャリスター

(ELIZABETH CALLISTER)

オーストラリア、ニューサウスウェルズ州教育委員会教育政策主任

プログラムの評価および管理責任者

社会科学および健康教育についての教授、特に人間形成、人間関係教育についての著書多数。自己受容および人間関係の大切さを教える教材「私、あなた、そしてみんな」(ME, YOU AND OTHERS, 1988) およびそのPART II (1990) の共著者。この秋には、「ニューサウスウェルズ州の学校における環境教育についての評価」を出版予定。エイズに関する教育にも携わり、「ニューサウスウェルズ州の中学生のエイズについての知識と態度」(1991年)の著書がある。

角田 尚子

国際理解教育・資料情報センター(ERIC)事務局長

大阪大学人間科学研究科博士課程修了

グリーンピース・ジャパン(元代表)

企画委員としてERICの設立からかかわる。

1994年4月から事務局長。

向 謙治郎

オープン・ドア日本協会代表

慶応義塾大学社会学研究科博士課程(学習心理学専攻)修了。現在、(株)日本通訳協会代表、

カテナ文際交流センター所長、「箱根会議」事務局長などを兼任。国際交流担い手ネットワーク作りに専念中。

稲垣 有一

大阪市立平野小学校教諭。ワールドスタディーズを創る会運営委員。1967年、奈良教育大学卒業。大阪市教育センター所員をへて、(元)全国同和教育研究協議会事務局次長。

友達みんな「いいところ」ある

互いに認め合うには…研究授業

自分のどんなところが好き？ 広いおでこ。好奇心が強い。元気にあいさつ。いいネ、いいネ……。自分を見直し、互いに認め合おうという授業が東京都内の小学校で行われた。よりよい人間関係をつくるためにオーストラリアで作られた教材を基にしており、日本版の「道徳」教材を作ろうという研究実践の「環」でもある。

好きな「自分」発表し合う



「今日は『自分のこと大好き』の勉強をします」。練馬区立開進第一小学校三年四組の道徳の授業は、小室桃子先生のこんな言葉で始まった。

まず、それぞれが手鏡で自分の顔をじっくりと見て、気が付いたことを発表する。「ホクロがひとつあった」「タラコくちびるだ」「おでこが広い」「額にキズのおとがある」

一人ひとりが違った人間なんだということが確認作業は、鏡に映る表面上のことから、しだいに心の内側に入

自分の「いいところ」と「いいところ」を発表すると、周りの子どもたちが「いいネ」「東京都練馬区の開進第一小学校で

ていく。「自分のことっていいなあ」と思うところ、その理由をいくつも書いてくたさい」と先生。

子供たちは数人ずつに分かれたグループの中で、一人ずつ自分の「いいところ」を発表していく。一回ごとに周囲の子供たちから「いいネ」と合いの手が入る。

「大きな声であいさつすること。だって気持ちがいいんだもん」「いいネ！ いいネ！」「だれかが泣いていると、気になって笑わず」「いいネ！ いいネ！」

最初、恥ずかしそうに口ひもっていた子も、みんなの「いいネ」にニコツとする。絵がうまい。人にやさしくする。お母さんと誕生日が同じよ。転校生とすぐ友達になれる。「いいところ」はそれぞれだ。

授業後の感想には、「自分のいいところを見つけるのはむずかしかったけど、いいねって言われてたのしかった」「みんないろいろな性格なので面白い」「それぞれいいところがあるんだなと、わかった」などと記されていた。

小室先生は「同じクラスにいても、案外お互いに知らないことが多いとも感じました。あの子はこうと想っていたのに、こんな面もあったのかと、教師にも発見があるのです。問題になっているいじめについても対症療法を考えるより、まず知り合い、認め合うことが大事だと思います」と話す。

豪で開発、人間関係考える教材

授業の基になったのは、オーストラリアの教師たちが開発した教材「わたし、あなた、そしてみんな——人間形成のためのグループ活動ハンドブック」(ERIC国際理解教育・資料情報センター訳)。青春時代にたれもがで

あう問題を中心に、へわたしんの気持ちを見つめ、へあななとやへみんなとの関係を考えるためのテキストだ。気がすすまないのに喫煙や万引きの仲間に入ってしまったのはどうしてかを考える「仲間からのレシジャー」

をはじめ、「気持ちをあわわす言葉さがし」「もめごとをどうして起くる？」など、家族や男女の人間関係も含め、百四十の項目に分けて、ものごとの主体的な考え方が紹介されている。ERICでは、小室先生た

ちと一緒に、授業の実践を重ねながら、日本の小学校の現状に合った「道徳」の教材としてまとめ、近く出版する計画だ。翻訳版は二千五百七十五円。問い合わせは、TEL4東京都北区東田端一の一四〇の一、岩瀬ビル一階のERIC(03-3800-9414)。

特活、道徳で活用も

豪州の事例集を翻訳

ERIC

自分がいかに大切な存在か知り、自信を持って人と接せられる子を育てたい。こんな願いを持つ教員の参事になるオーストラリアの活動事例集が、ERIC国際理解教育・資料情報センターから翻訳出版された。

欧米などでは人間形成の過程で深く根づいていくといつ、自分を肯定的に認め、その存在を受容したりする力(セルフ・エスティーム)や、自分の主張や意思を相手に伝える能力(アサーティブネス)を、日本で

をキーワードに「わたし一人のいたいところをいえない人間の成長」わたしとあなたに気づく。

た一双方向のコミュニケーションと人間関係づくり」わたし、あなた、そしてみんな一集団の中での良い人間関係づくり」の三つの章で、自分や人間関係について考えるアクティビティが紹介されている。

たときは、親や兄弟、先生、友達、OO、など自分の関係のある人を書き出し、それぞれの人について「自信をもっていたら」とか「かどつかい」とか「つもいえなら」とか「いえる」「いつもいえる」に区別してみる。すると相手や時と場合によっては自

その理由について自分で考えたり、どうしたらいいかと自信が持てるようになる

か、自分のいたいところを伝えるようになるが、場面を仮定して話しあう活動にも広げられる。

百四十のアクティビティから目的に応じて抜き出し、特別活動や道徳の教材として活用できそうだ。A4判、二千五百円(税抜き)。申し込みは郵便振り替えで。

問い合わせERIC国際理解教育・資料情報センター ☎03三三八〇・九四一四

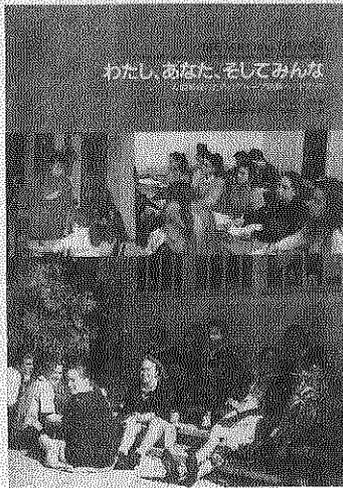
よい人間関係づくり

わたし、あなた、そしてみんな

人間形成のためのグループ活動ハンドブック

E キヤリストター他著、ERIC 訳

少々オーバーな言い方を、怖感に曝されている。まさにそれは、中学校の教師たちに、異常事態というほかは、現在、学校で「いじめ」がない。この問題の解決は、が発生し、それがマスコミ、教育界の最大の課題であるに報道されたら、という恐が、その処方箋の一つとし



て本書は役に立つ、といっことをはっきりと攻撃的で、でもない方法で表現する能力。資料情報センター(ERIC)でも、「学校教育の中で

この本は、「わたし、あなた、そしてみんな」という「わたし：人間の成長」「わたしとあなた：双方向のコミュニケーション」と人間関係と自己の成長を助けるワークブックとして編集されたものである。著者は、オーストラリアの三人の教師で、自らの実践を重ねる中で開発した様々な活動例が紹介されている。

本書のキーワードは、「セルフ・エスティーム」と「アサーティブネス」の二つ概念である。「セルフ・エスティーム」とは、必要な資質・力量として、自分を肯定的に認め、自信を持つ、価値のある存在であると感

じめる力、「アサーティブネス」とは、自分の言いたいことをはっきりと攻撃的で、でもない方法で表現する能力。資料情報センター(ERIC)でも、「学校教育の中で

「わたし、あなた、そしてみんな」という「わたし：人間の成長」「わたしとあなた：双方向のコミュニケーション」と人間関係と自己の成長を助けるワークブックとして編集されたものである。著者は、オーストラリアの三人の教師

で、自らの実践を重ねる中で開発した様々な活動例が紹介されている。

訳をした国際理解教育・資料情報センター(ERIC)でも、「学校教育の中で」は、道徳や学級活動はもちろんで、国語、英語、社会などの教科でも十分に活用できる。国際理解教育や新しい道徳教育のあり方を考える指針として、日々の授業でも活用してほしい」と望んでいる。

なお、同センターでは、本書の続編として、日本の教室ですぐに使える教材の開発を進め、近く刊行する予定だといふ。

国際理解教育・資料情報センター
〒114 東京都北区東田端一丁目一四一、岩瀬ビル1F/ ☎03-380-9424、23-5755